

「Nチャレンジ」を活用した空知地域の活性化事業

特定非営利活動法人 北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所

はじめに

本事業は、「Nチャレンジ」を活用し、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代が、楽しく運動や交流などの体験を通じ、空知地域の健康促進と地域活性化を図ることを目的に実施しました。2024年9月23日（月・祝）は、「道の駅ハウスヤルビ奈井江・多目的芝生広場」、また、同年11月2日（土）は「道の駅三笠・2階研修室」で、それぞれイベントを開催しました。

イベントは、北海道教育大学岩見沢校を拠点に活動する特定非営利活動法人 北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所（以下、研究所）が主催しました。同研究所は、広く一般市民を対象として、大学の研究成果を地域に還元していく活動として、芸術・スポーツ文化を地域に根付かせるための事業や、様々な芸術・スポーツを体験できる場の創造など、豊かな地域づくりに貢献することを目的として、2023年12月に設立されました。

芸術（アート）とスポーツという二つの分野を通じて、教育的価値のある地域連携活動を行っており、「あそびからまなびへ」をコンセプトに、子どもたちが創造的に学び、地域住民が健康で文化的な生活を送れる仕組みづくりを目指しています。また、これまで北海道教育大学岩見沢校が培ってきた芸術・スポーツ文化における研究成果を地域の多種多様なニーズに併せてカスタマイズし、提供する等、これまで大学ではできなかった形の成果発信と社会実装の実践に取り組んでいます。

2024年9月23日 道の駅ハウスヤルビ奈井江イベント

9月のイベントは、青空の下、屋外の多目的芝生広場で、「Nチャレンジ」「体力測定」「フリースロー体験会」の3種類の体験ブースを設けて実施しました。

特にメインイベントとなったのが「Nチャレンジ」です。これは、子どものアジリティ（敏捷性）を楽しみながら測定・向上させる運動プログラムであり、北海道教育大学岩見沢校の教員らによって開発されまし



2024.9.23 道の駅ハウスヤルビ奈井江イベントの様子

た。N字型のコースを走行する形式で、名称は「North（北海道）」と「N字型コース」から取られています。コースは、直線走・ミニハードル・スラロームといった様々な要素があり、記録が即時にプリントアウトされる仕組みです。これにより、子どもたちは自身のタイムを確認しながら、何度も挑戦することができます。

当日は3歳の幼児から小学生まで多くの子どもたちが参加し、笑顔で何度もチャレンジする様子が見られました。子どもたちの意欲を引き出しながら、楽しく運動能力を育む貴重な機会となりました。

また、体力測定ブースでは、長座体前屈（柔軟性）、開眼片足立ち（バランス能力）、座位ステッピング（下肢筋力）の3種目を設け、測定結果を記録紙に記入し



Nチャレンジの様子

返却することで、参加者自身が体力状況を把握できるようにしました。特に大人や高齢者の参加が多く、子どもはNチャレンジ、大人は体力測定と、世代ごとに楽しめる工夫をしました。

さらに、北海道唯一の3人制プロバスケットボールチーム「FUz HOKKAIDO.EXE」の選手によるフリースロー体験会も開催しました。プロの選手と一緒にボールを投げる体験は、子どもたちにとって非常に刺激的であり、スポーツの楽しさを身近に感じることができる機会となりました。

2024年11月2日 道の駅三笠イベント

11月に行われた三笠イベントでは、季節的な降雪や低温を考慮し、屋内施設がある道の駅三笠の2階研修室で実施をしました。今回は「Nチャレンジ」と「体力測定」の2つのプログラムに絞って展開しました。

室内開催では、安全面に最大限の配慮を行い、持ち運び可能なバスケットボール用のフロアコートを設置して、走行時の滑りや転倒のリスクを最小限に抑えました。Nチャレンジのコースも工夫され、限られたスペースの中でも楽しく測定・運動できる環境を整えてイベントを実施することができました。

体力測定では、奈井江イベントで実施した種目に加えて「閉眼片足立ち」も導入し、より高難度のバランス能力も測定可能となりました。今回も、子どもたちはNチャレンジに夢中になり、大人や高齢者は体力測定に取り組むといった構図ができ、家族全体で健康に向き合う姿が印象的でした。



2024.11.2 道の駅三笠イベントの様子

今後の展望と課題

今回の事業では、参加者から多くの好評をいただきましたが、同時に課題も明らかとなりました。特に、「Nチャレンジ」は、運動好きな子どもにとって魅力的な内容である一方で、運動に対して苦手意識を持つ子どもや保護者は参加しづらい傾向が見られました。この点を改善するためには、運動以外の要素、たとえば芸術的表現活動や創作活動などを組み合わせることが有効であると考えられます。

当研究所は、まさに芸術とスポーツの両輪による地域貢献を得意とするNPOです。今後は、美術、音楽、などの創造的活動と、運動プログラムを組み合わせた複合型のイベントを検討することで、より幅広い地域住民が参加できる仕組みづくりを目指します。

また、今回のように道の駅を活用することにより、地域住民が自然に立ち寄りやすく、多世代交流を促進できる利点があります。

道の駅に芸術・スポーツの体験ブース設置や、地域イベントとの連携を強化することで、道の駅を中心とした地域活性化のモデルケースを作ることにも視野に入れています。

本事業を通じて、運動や交流を「楽しい体験」として提供することで、参加者が自然と体を動かし、地域とのつながりを感じる場を創出することができました。

同研究所では、「あそびからまなびへ」という理念のもと、創造的な学びと健康な地域づくりを支える活動を展開し、より多くの地域の方々が「誰でも、いつでも、気軽に参加できる」仕組みづくりを進め、持続可能な地域活性化の一助となるよう取り組んでいきたいと思っています。



特定非営利活動法人
北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所
<https://www.iwamizawa-asobi.jp/>